

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 26 日現在

機関番号：12604

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520210

研究課題名(和文)近世中期子ども絵本の分析による伝承文化研究

研究課題名(英文)A study of picture book for children in the Edo period

研究代表者

黒石 陽子(KUROISHI, Yoko)

東京学芸大学・教育学部・教授

研究者番号：40247268

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：平成23年度より平成26年度までの四年間で、江戸時代の子ども絵本(赤本・黒本・青本)及び黄表紙・合巻・豆本を対象に、30本の研究論文を作成し、『叢草双紙の翻刻と研究』の33号から36号に掲載した。このうち、27本についてはこれまで未翻刻の作品を扱い、全て翻刻して広く資料として公開することを達成した。

研究対象としたいずれの作品も、絵と言葉が混交して作られている作品であり、その絵と言葉の関係性について、各研究論文は詳細に分析しており、江戸時代の作品の重要な特色を明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：In four years until the 2014 fiscal year than in 2011 fiscal year to subject the Edo period of children's picture book (Akahon, Kurohon, Aohon) and Kibyoshi, Gokan, miniature book, to create the 30 pieces of research papers, "It was posted to NO.36 from No.33 of the reprint and research" of Kusazoshi. Among them, for the 27 This treats the work has not been Reprint far it was possible publishi all republication. Any of the work that the study also, picture and words have been mixed, it was analyzed in detail about the relationship of the painting and the words. As a result, it was possible to reveal the key feature of the works of the Edo period.

研究分野：近世文学・近世演劇

キーワード：黒本 青本 赤本 黄表紙 合巻 豆本

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本文化の中でもマンガやアニメーションは広く世界から注目されていた。その源流は中世から近世にかけて展開した「絵画の文化」に遡ることができ、その特色を解明することは日本文化研究の重要な課題の一つであった。

(2) 近世中期に出版された初期草双紙は当時の庶民に広く享受された絵本であり、子どもが読んだことが明らかであり、後代への影響が非常に大きいことが判明してきていた。

2. 研究の目的

(1) 18世紀に刊行された近世中期子ども絵本、いわゆる初期草双紙(赤本・黒本・青本)は庶民層が安価で手に入れることができた印刷物であった。従って版を重ねて長年にわたり、多くの子どもと大人によって読み継がれてきた。そこに描かれた物語の絵の構図は子どもと大人が共有し、次の世代へと受け継がれて行き、次世代、次々世代がさらに成熟した新たな表現を生み出すことにつながっていった。それらの展開と流れを視野に入れながら、それらの源となった初期草双紙の表現の形を具体的、かつ詳細に分析し、その意味と価値を明らかにする事が第一の目的である。

(2) 初期草双紙は前代に既に描かれて来た絵の構図を受け継ぎながらも、その該当する場面に新たな解釈を施し、新しい展開を作り出して行く特色がある。その時に言葉とともに、絵の構図にも新しい要素を取り込み、読者の予想を裏切ったり、新しい展開で驚かせたりする傾向が見られる。それらを具体的に分析することにより、初期草双紙の発想を探ることが第二の目的である。

3. 研究の方法

初期草双紙の表現方法を解明し、その特色を明らかにする。さらにその表現方法によって作り出された場面が後代へもたらした影響について解明する。具体的には

- (1) 初期草双紙は絵と言葉によって構成されている。その双方の関係性及び、その表現方法と工夫を分析する。
- (2) 絵の描き方に注目し、ストーリー展開においてどのような場面を選び、どのような構図とするのか、それらは典拠となった先行作品といかなる関係にあるのかを解析する。

これらを通して初期草双紙作者の創作の方法と工夫、伝承文化への寄与の実態について明らかにする。

4. 研究成果

(1) 4年間で初期草双紙、黄表紙、合巻、豆本合わせて26作品の未翻刻作品の翻刻を行い、内容の詳細な分析を行い、研究者に広く公開することができた。初期草双紙はおよそ1000点近く刊行されていたことが知られているが、この内、翻刻、紹介されているものは多く見ても3割に満たない状況である。初期草双紙の特色を明らかにするには、一つ一つの作品の作り方を多面的に考察・究明する必要があるが、まずは作品の画像紹介と、それに伴う正確な翻刻がその出発点である。

(2) 国内に所在の知られていない韓国国立中央図書館所蔵の黒本を紹介し、翻刻並びに内容の分析を示すことができた。近年海外に所蔵されている初期草双紙の調査が行われているが、国内に所蔵が確認されていない作品もまだあることが明らかになって来ている。今回、韓国国立中等図書館のご理解を得て、所蔵の初期草双紙について調査を許され、さらに全冊の画像の公開について許可をいただき、紹介することができた。近世中期の草双紙の製作の特色が顕著に表れている作品であり、貴重な作品を紹介することが実現した。

(3) 各作品について、絵と言葉の関係性に注目し、多角的にこの問題について取り組むことができた。とりわけ『義経記』を中心とする義経関係のもの、また源頼光を中心とする「酒呑童子」の世界など、中世・近世・近代と長く愛され続けて来た伝承について、初期草双紙をはじめとし、その後の草双紙の展開の中で、受け継がれて行くもの、変化して行くものを検討した。その結果、絵の構図について前代からの継承と、初期草双紙が新たに開発した構図、またその構図が意味するものについて考察を深めることができた。

(4) 上記のような成果を得る過程を通して、新たに次のような課題に遭遇することができたのも、一つの成果である。初期草双紙の絵の描き方にはいくつかの共通性があることが見えてきているが、その背後にある発想について注目する必要がある。また、上方の絵の描き方と江戸のそれとは明らかに異なっており、絵が表現の大きな役割を担っていることは、江戸の方にその傾向が強いことが明らかになってきた。これについては今後本格的に調査する必要性がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計30件)

黒石陽子 韓国国立中央図書館所蔵『(わにふか)』について 『叢草双紙の翻刻

と研究』36号 査読無、2015、pp.1 24

三好修一郎 黄表紙『新田義貞一代記』
について(中) 『叢草双紙の翻刻と
研究』36号 査読無、2015、pp.111 142

内ヶ崎有里子 『花咲爺誉魁』について
『叢草双紙の翻刻と研究』36号 査読
無、2015、pp.167 184

加藤康子 合巻『名ノ将 大江山入』に
ついて その一 『叢草双紙の翻刻と
研究』36号 査読無、2015、pp.185 211

黒本・青本『遠眼鏡茂右衛門』について
『叢草双紙の翻刻と研究』36号 査読
無、2015、pp.25 50

細谷敦仁 黒本『敵討錦女帯』について
『叢草双紙の翻刻と研究』36号 査読
無、2015、pp.51 86

佐藤智子 黒本『[かまた]』について
『叢草双紙の翻刻と研究』36号 査読
無、2015、pp.87 110

檜山裕子 合巻『忍弾仇汐汲』について
その一 『叢草双紙の翻刻と研究』36
号 査読無、2015、pp.143 166

黒石陽子 『双ノ丘 金売橘次分別袋』
について 『叢草双紙の翻刻と研究』
35号 査読無、2014、pp.1 34

三好修一郎 黄表紙『新田義貞一代記』
について(上) 『叢草双紙の翻刻と
研究』35号 査読無、2014、pp.131 166

加藤康子 頼光一代記物の絵における江
戸と上方の違い その二 『叢草双紙
の翻刻と研究』35号 査読無、2014、
pp.187 204

杉本紀子 青本『萬民大福帳』について
『叢草双紙の翻刻と研究』35号 査読
無、2014、pp.35 66

佐藤智子 『鎌田又八化物退治』につい
て 『叢草双紙の翻刻と研究』35号 査
読無、2014、pp.67 98

瀬川結美 黒本『新ノ板 倉治山忠儀生
不動』について 『叢草双紙の翻刻と
研究』35号 査読無、2014、pp.97 132

檜山裕子 合巻『腹内窺機関』について
『叢草双紙の翻刻と研究』35号 査読
無、2014、pp.167 186

黒石陽子 黒本・青本『義経一代記』に
見る初期草双紙の表現方法の特色 『叢
草双紙の翻刻と研究』34号 査読無、2013、
pp.1 20

加藤康子 頼光一代記物の絵における江
戸と上方の違い その一 北尾政美の
『[頼光]』『繪本英雄鑑』『繪本大江山』
を中心にして 『叢草双紙の翻刻と
研究』34号 査読無、2013、pp.123 161

瀬川結美 黒本・青本『[猿廻春花婿]』
について 『叢草双紙の翻刻と研究』
34号 査読無、2013、pp.21 54

ジョナサン・ミルズ 青本『鬼鹿毛の駒』
の絵について 浄瑠璃絵尽『小栗判官車
街道』との比較 『叢草双紙の翻刻
と研究』34号 査読無、2013、pp.55 74

杉本紀子 黄表紙『雷之臍喰金』につい
て 『叢草双紙の翻刻と研究』34号 査
読無、2013、pp.75 99

21 檜山裕子 合巻『風俗女西遊記』につい
て 其二 『叢草双紙の翻刻と研究』
34号 査読無、2013、pp.100 122

22 黒石陽子 『風流いかい田わけ』考
『叢草双紙の翻刻と研究』33号 査読
無、2012、pp.1 14

23 三好修一郎 黒本・青本『新田四天王』
について 『叢草双紙の翻刻と研究』
33号 査読無、2012、pp.15 60

24 加藤康子 頼光物豆本三作品について
『頼光』の絵の特色をめぐって 『叢
草双紙の翻刻と研究』33号 査読無、2012、
pp.185 226

25 瀬川結美 黒本・青本『新ノ板 風流鬼
瘤昔咄』について 『叢草双紙の翻刻
と研究』33号 査読無、2012、pp.61 86

26 ジョナサン・ミルズ 青本『鬼鹿毛の駒』
について 『叢草双紙の翻刻と研究』
33号 査読無、2012、pp.87 110

27 細谷敦仁 黄表紙『敵討山吹流』につい

て『叢草双紙の翻刻と研究』33号 査読無、2012、pp.111 132

28 杉本紀子 黄表紙『強ノ小児 石部金吉』について『叢草双紙の翻刻と研究』33号 査読無、2012、pp.133 164

29 檜山裕子 合巻『風俗女西遊記』について 其の一『叢草双紙の翻刻と研究』33号 査読無、2012、pp.165 184

30 佐藤智子『力瘤胴突柱』について『叢草双紙の翻刻と研究』33号 査読無、2012、pp.227 257

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

黒石 陽子 (KUROISHI, Yoko)
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号：40247268

(2) 研究分担者

なし ()

研究者番号：

(3) 連携研究者

三好 修一郎 (MIYOSHI, Syuichiro)
福井大学・教育地域科学部・教授
研究者番号：40157699

加藤 康子 (KATO, Yasuko)
梅花女子大学・文学部・教授 (平成 25 年度まで)
研究者番号：60299005

山下 則子 (YASHITA, Noriko)
国文学研究資料館・教授
研究者番号：40311162

有働 裕 (UDO Yutaka)
愛知教育大学・教育学部・教授
研究者番号：20213465

山下 琢己 (YAMASHITA, Takumi)
東京成徳大学・人文学部・教授
研究者番号：80230423

内ヶ崎 有里子 (UCHIGASAKI, Yuriko)

岡崎女子大学・子ども教育学部・教授
研究者番号：00279960

湯浅 佳子 (YUASA, Yoshiko)
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号：00282781